



REEL No. 1-0465

0488

● 年  
● 温  
● 意  
● 切

● 年  
● 温  
● 意  
● 切

REEL No. 1-0465

0489

# ●法政大學速成科校外生

法政學ノ普及ヲ圖ランカ爲メ東京法政大學ニ於テ速成科課程ヲ設ケルモノヲ發行シ簡易迅速ニ法律學ノ智識ヲ養成シ以テ實務ニ資スル所ヲ示シテ去五月ヨリ始メ明年二月ヲ以テ終ル事ナリ僅少ノ月間ヲ以テ此ノ如キ研究材料ヲ得ルノ例種ナリ左ニ内容ヲ大畧ニ報ス若シ志アルモノハ入學證ニ添テ料金を添テ函申込メテ可シ

一 發刊 毎月五日發行本年五月初號ヲ發行セリ每號紙數二百八十七頁内外ナシ

二期間 毎月一回發行價々十ヶ月ヲ以テ全部完結ス何時ニテモ入學ヲ許ス

一月謝 一ヶ月金壹拾八錢

官廳會社奉職ノ者並ニ本大學校友又ハ本科校外生ノ紹介ヲ有スル者ニ限リ左ノ通減額ス

一ヶ月 前納 金壹圓七拾錢

五ヶ月 前納 金壹圓七拾錢

十ヶ月 前納 金壹圓七拾錢

一 申込期 入學時期ハ五月ナルモ目下ニテモ其中迄ノ月ヨリ順次繰下ケ月謝ヲ納付スルコトヲ許シ學費ハ漸次之ヲ配付ス但シ先方ニ完リセンドスルハ五月分ヨリ額メテ月謝ヲ納付スルコトキハ講義録モ取置シ一時ニ配付スヘシ

## ○法令

### 三 校 外 生 入 學 證

一 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

二 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

三 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

四 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

五 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

六 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

七 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

八 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

九 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

十 凡ソ本大學ニ入學シテ學費ヲ納付シ且テ學費ノ納付シタル事ハ學費納付書ニシテ證明スルモノアリ

東京市麹町區富士見町五丁目  
法政大學 御中

本講義録編輯科目並ニ擔任講師

法學通論 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 梅 謙次郎

憲法 法政大學教授 法學博士 清水 水澄

行政法 法政大學教授 法學博士 島村他三郎

民法 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 梅 謙次郎

刑法 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 板倉松太郎

民事訴訟法 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 清水 孝藏

刑事訴訟法 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 清水 孝藏

自治制憲論 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 清水 孝藏

租稅法要論 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 和野 一

會計法要論 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 和野 一

監獄學 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 小須 次郎

簿記學 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 小須 次郎

一 法政大學ニ送金ノ際ハ振替貯金ニテ口座三二九四番ニテ拂込メ可ク

一 入學希望者ハ左ノ入學證ヲ切取り住所氏名ヲ記入シ送付スヘシ





總務部  
 內務部  
 度支部  
 農商工部  
 司法部  
 第十條 總務部ニ人事局、外事局、會計局、內務部ニ地方局、學務局、度支部ニ司稅局、司計局、農商工部ニ殖産局、商工局ヲ置ク  
 官房、各部及各局ノ事務ノ分掌ハ總督之ヲ定ム  
 第十一條 總督府ニ左ノ職員ヲ置ク  
 長官 五人  
 局長 九人  
 參事官 專任二人  
 秘書官 專任二人  
 書記官 專任十九人  
 事務官 專任十九人  
 技師 專任三十人  
 通譯官 專任六人  
 屬 專任三百三十七人  
 技手  
 通譯生 判任

第十二條 長官ハ各部ノ長ト爲リ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス  
 第十三條 局長ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス  
 第十四條 參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ各部局ノ事務ヲ助ク  
 第十五條 秘書官ハ總督ノ命ヲ承ケ機密ニ關スル事務ヲ掌ル  
 第十六條 書記官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル  
 第十七條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ助ク  
 第十八條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル  
 第十九條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル  
 第二十條 屬、技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及通譯ニ從事ス  
 第二十一條 總督府ニ總督附武官二人及專屬副官一人ヲ置ク  
 總督附武官ハ陸海軍少將又ハ佐官ヲ以テ之ニ補ス  
 總督附武官ハ參謀トス  
 副官ハ陸海軍佐尉官ヲ以テ之ニ補ス  
 總督附武官及副官ハ總督ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス  
 附則  
 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ施行ス  
 明治四十三年勅令第三百十九號ハ其ノ官立學校ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ廢止ス  
 ●朝鮮總督府中樞院官制 明治四十三年九月二十九日勅令第三百五十五號  
 第一條 朝鮮總督府中樞院ハ朝鮮總督ニ隸シ朝鮮總督ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條 中樞院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 議長 一人 親任待遇
  - 副議長 十五人 勅任待遇
  - 顧問 二十人 勅任待遇
  - 贊議 三十五人 奏任待遇
  - 副贊議 勅任
  - 書記官長 二人 奏任
  - 書記官 三人 奏任
  - 通譯官 三人 奏任
  - 屬 專任三人 判任
- 第三條 中樞院議長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ  
議長ハ院務ヲ總管シ中樞院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス  
中樞院副議長ハ議長ヲ輔佐シ議長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第四條 顧問ハ院議ヲ審定ス
- 第五條 贊議及副贊議ハ決議ニ參與ス但シ決議ニ加ハルコトヲ得ス
- 第六條 副議長、顧問、贊議及副贊議ハ朝鮮總督ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第七條 副議長及顧問ニハ年額二千五百圓以内、贊議ニハ千二百圓以内、副贊議ニハ八百圓以内ヲ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ手當トシテ支給ス但シ官吏ニシテ副議長、顧問、贊議又ハ副贊議タル者ニハ手當ヲ支給セス
- 第八條 書記官長、書記官及通譯官ハ朝鮮總督府高等官ノ中ヨリ之ヲ兼ネシム

第九條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ承ケ院務ヲ掌理ス

第十條 書記官ハ書記官長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌ル

第十一條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ院務ニ從事ス

附則  
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府取調局官制 明治四十三年九月二十九日 勅令第三百五十六號

第一條 朝鮮總督府取調局ハ朝鮮總督ニ隸シ左ノ事務ヲ掌ル  
一 朝鮮ニ於ケル各般ノ制度及一切ノ舊慣ヲ調査スルコト  
二 總督ノ指定シタル法令ノ立案及審議ヲ爲スコト  
三 法令ノ廢止改正ニ付意見ヲ具申スルコト

第二條 取調局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官 勅任
- 書記官 專任二人 奏任
- 事務官 專任四人 奏任
- 屬 專任十二人 判任
- 通譯生

第三條 長官ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四條 書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ助ク

法令

第六條 屬及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及通譯ニ從事ス  
 第七條 取調局ニ委員三十人以内ヲ置ク  
 第八條 委員ハ朝鮮ニ於ケル制度及習慣ニ關スル調査ニ從事ス  
 第九條 委員ハ學識名望アル朝鮮人ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス  
 委員ニハ一年六百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得  
 附則  
 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府地方官官制 明治四十三年九月二十九日  
 勅令第三百五十七號

- 第一條 朝鮮ニ左ノ道ヲ置ク
- 京畿道
- 忠清北道
- 忠清南道
- 全羅北道
- 全羅南道
- 慶尙北道
- 慶尙南道
- 黃海道
- 平安南道
- 平安北道

江原道

咸鏡南道

咸鏡北道

道ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二條 各道ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長官 勅任
- 參贊官 勅任又ハ奏任
- 事務官 奏任
- 通譯官 奏任
- 技師 奏任
- 書記 奏任
- 技手 判任
- 通譯生

長官ハ當分ノ内奏任ト爲スコトヲ得  
 第三條 各道ヲ通シテ事務官ハ專任二十六人、技師ハ專任六人、書記技手及通譯生ハ專任四百二十三人トス

通譯官ハ道ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置ク  
 第四條 各道ニ於ケル事務官、通譯官、技師、書記、技手及通譯生ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五條 道長官ハ朝鮮總督ニ隸シ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ管理シ所屬官吏ヲ指揮監督ス  
 道長官ハ道行政ノ執行ニ關シ管内ノ警察官ヲ使用スルコトヲ得

法令 (第四號)

三〇三

道長官ハ地方警察事務ニ關シ道警務部長ヲシテ必要ナル命令ヲ發シメ又ハ之ニ對シ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第六條 道長官ハ管内ノ行政事務ニ關シ職權又ハ委任ノ範圍内ニ於テ道令ヲ發スルコトヲ得

第七條 道長官ハ府尹又ハ郡守ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第八條 道長官ハ安寧秩序ヲ保持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ朝鮮總督ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ當該地方駐在軍隊ノ司令官ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得

第九條 道長官事故アルトキハ内務部長タル事務官其ノ職務ヲ代理ス

第十條 道長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府尹又ハ郡守ニ委任スルコトヲ得

第十一條 參與官ハ道長官ノ諮問ニ應シ又ハ臨時命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十二條 各道ニ長官官房、内務部及財務部ヲ置ク

官房及各部ノ事務分掌ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條 内務部長及財務部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 内務部長及財務部長ハ道長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十五條 部長ニ非サル事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ道務ヲ掌ル

第十六條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十七條 書記、技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及通譯ニ從事ス

第十八條 各道ニ府及郡ヲ置ク

第十八條 各府郡ニ左ノ職員ヲ置ク

府尹又ハ郡守 奏任

書記 判任

通譯生

府ニ事務官及通譯官ヲ置クコトヲ得

府事務官及府通譯官ハ奏任トス

第十九條 各府ヲ通シテ事務官及通譯官ハ專任四人、各府郡ヲ通シテ書記及通譯生ハ專任二十二人トス

第二十條 各府郡ニ於ケル事務官、通譯官、書記及通譯生ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第二十一條 府尹又ハ郡守ハ道長官ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

府事務官ハ府尹ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

府通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十二條 書記、技手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務、技術及通譯ニ從事ス

第二十三條 各道及各府郡ニ參事ヲ置クコトヲ得

參事ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

參事ハ道、府郡管轄内ニ居住シ學識名望アル者ニ就キ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道長官之ヲ命ス

第二十四條 參事ハ名譽職トシ道長官又ハ府尹、郡守ノ諮問ニ應スルモノトス

參事ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十五條 各府郡ニ面ヲ置ク

0496

面ニ面長ヲ置ク判任官ノ待遇トス府尹又ハ郡守ノ指揮監督ヲ承ケ面内ノ行政事務ヲ補助執行ス  
 面及面長ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム  
 第二十六條 各道ニ慈惠醫院ヲ附置ス  
 慈惠醫院ハ疾病ノ診療ニ關スル事ヲ掌リ兼テ總督ノ指定ニ依リ醫師ノ養成ニ關スル事ヲ掌ル  
 各醫院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 奏任又ハ判任

醫員 判任

書記 判任

助手 判任

通譯生 判任

各醫院ヲ通シテ醫員ハ專任二十八人、書記助手及通譯生ハ專任四十一人トス  
 各醫院ニ於ケル醫員、書記、助手及通譯生ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム  
 第二十七條 院長ハ醫員ヲ以テ之ニ充ツ道長官ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス  
 第二十八條 醫員ハ院長ノ指揮ヲ承ケ醫務及醫育ヲ掌ル  
 書記、助手及通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務醫務及通譯ニ従事ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●統監府警察官署官制中改正ノ件 明治四十三年九月二十九日  
 勅令第三百五十八號  
 統監府警察官署官制中左ノ通改正ス

「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ、「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム

第三條中「皇宮及」ヲ削ル

第五條中「三人」ヲ「二人」ニ、「五十二人」ヲ「四十四人」ニ、「三人」ヲ「二人」ニ改ム

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

警務部長ハ道長官ノ命ニ依リ道行政ノ執行ヲ助ケ又ハ地方警察事務ニ關シ道長官ノ命ヲ承ケ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スヘシ

第九條 警務總長及警務部長ハ各其ノ職權又ハ委任ノ範圍内ニ於テ命令ヲ發スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府警務總長、警務官、警務部長、警視、通譯官、技師、警察醫、警部、周、技手及通譯生ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用キス朝鮮總督府警務總長、警務官、警務部長、警視、通譯官、技師、警察醫、警部、周、技手及通譯生ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●朝鮮總督府裁判所職員定員令 明治四十三年九月二十九日  
 勅令第三百六十五號

朝鮮總督府裁判所及檢事局職員ノ定員ハ各裁判所及檢事局ヲ通シテ左ノ如シ

- 判事 二百六十一人
- 檢事 六十三人
- 書記長 四人
- 通譯官 四人
- 書記 四百二十九人

前項職員ノ各裁判所及検事局ニ於ケル定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

通譯生

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府判事、検事、裁判所書記長、裁判所通譯官、裁判所書記及裁判所通譯生ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用キス朝鮮總督府判事、検事、裁判所書記長、裁判所通譯官、裁判所書記及裁判所通譯生ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●統監府監獄官制中改正ノ件 明治四十三年九月二十九日 勅令第三百六十六號

統監府監獄官制中左ノ通改正ス

「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

第三條 監獄ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

典獄

專任八人

奏任

看守長

專任六十一人

判任

第四條第二項ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ統監府典獄、看守長及通譯生ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用キス朝鮮總督府典獄、看守長及通譯生ニ各同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

●朝鮮人タル奏任官及判任官ノ増置ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日 勅令第三百七十四號

朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ各俸給豫算定額内ニ於テ朝鮮人タル奏任官又ハ判任官ヲ増置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ朝鮮總督ハ奏任官ニ付テハ豫算其ノ官名及人員ヲ具シ勅裁ヲ請フヘシ

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府警務總長等ノ發スル命令ノ罰則ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日 勅令第三百七十六號

朝鮮總督府警務總長及道長官ハ其ノ發スル命令ニ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、百圓以下ノ罰金

又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

朝鮮總督府警務部長ハ其ノ發スル命令ニ拘留又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年勅令第二百九十七號ハ之ヲ廢止ス

●高等官官等俸給令中改正ノ件 明治四十三年九月二十九日 勅令第三百七十七號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

等七條中「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ、「副統監」ヲ「朝鮮總督府政務總監」ニ改ム

第八條中「統監府總務長官」「統監府司法廳長官」ヲ「朝鮮總督府鐵道局技監」ニ、「統監府參事官」「統監

府判事及統監府檢事ヲ朝鮮總督府各部局長朝鮮總督府取調局長官朝鮮總督府通信局長官  
 朝鮮總督府臨時土地調查局副總裁朝鮮總督府判事及朝鮮總督府檢事ニ改メ府縣知事ノ次ニ  
 朝鮮總督府道長官ヲ行政裁判所評定官<sup>部長</sup>ノ次ニ朝鮮總督府醫院院長ヲ加ヘ統監府通信管  
 理局長統監府司法廳參事官統監府警務官統監府營林廠長及理事廳理事官朝鮮總督府各  
 局長朝鮮總督府參事官朝鮮總督府警務官朝鮮總督府營林廠長朝鮮總督府平壤鑛業所長及  
 朝鮮總督府醫院醫官ニ改ム  
 第十條中理事廳理事官及又理事廳理事官ヲ削リ  
 第十四條中統監府書記官統監府書記官統監府特許局事務官統監府通信管理局事務官統監府  
 司法廳參事官統監府司法廳書記官統監府警務官及理事廳理事官朝鮮總督府參事官朝鮮  
 總督府書記官朝鮮總督府書記官朝鮮總督府取調局書記官朝鮮總督府警務官朝鮮總督府專賣局  
 長朝鮮總督府工業傳習所長朝鮮總督府鐵道局參事朝鮮總督府通信局書記官朝鮮總督府臨  
 時土地調查局書記官朝鮮總督府稅關長朝鮮總督府道事務官及朝鮮總督府府尹ニ改ム  
 第十五條中統監府判事及統監府檢事ヲ朝鮮總督府判事及朝鮮總督府府尹ニ改ム  
 第十六條中統監府司法廳監獄事務官統監府通信事務官及統監府營林廠事務官朝鮮總督府  
 事務官朝鮮總督府取調局事務官朝鮮總督府鐵道局副參事朝鮮總督府通信事務官朝鮮總督府  
 營林廠事務官及朝鮮總督府平壤鑛業所事務官ニ改ム  
 第十七條中統監府通譯官及統監府特許局審查官ヲ朝鮮總督府通譯官ニ改ム  
 第十八條中理事廳副理事官ヲ削リ  
 第十九條中統監府典獄及統監府警視ヲ朝鮮總督府警視朝鮮總督府專賣局事務官朝鮮總督  
 府印刷局事務官朝鮮總督府臨時土地調查局事務官朝鮮總督府醫院醫官朝鮮總督府稅關事務官

朝鮮總督府稅關監視官朝鮮總督府稅關鑑定官朝鮮總督府港務官朝鮮總督府移出牛檢疫所檢疫  
 官朝鮮總督府典獄朝鮮總督府道慈惠醫院醫員朝鮮總督府府事務官及朝鮮總督府郡守ニ改  
 ム  
 第二十條中統監府通信事務官補ヲ朝鮮總督府鐵道局參事補朝鮮總督府通信事務官補及朝鮮  
 總督府醫院事務官ニ改ム  
 第二十一條中統監府通譯官警務官統監府警察醫統監府裁判所書記長及統監府裁判所通譯官  
 朝鮮總督府通譯官警務官朝鮮總督府警察醫朝鮮總督府鐵道局通譯官朝鮮總督府臨時土地  
 調查局監查官朝鮮總督府醫院藥劑官朝鮮總督府醫院醫員朝鮮總督府港務醫官朝鮮總督府道  
 通譯官朝鮮總督府通譯官朝鮮總督府裁判所書記長及朝鮮總督府裁判所通譯官ニ改ム  
 第二十二條中統監府通信技師朝鮮總督府通信技師及朝鮮總督府醫院醫官ニ改ム  
 第二十七條中及統監府營林廠長朝鮮總督府各局長朝鮮總督府營林廠長朝鮮總督府平壤鑛業  
 所長及朝鮮總督府道長官ニ改ム  
 第一表中統監府ノ部ヲ左ノ如ク改ム

朝鮮總督府	總務部長	同	上
政務總監	內務部長	同	上
度支部長	同	同	上
農商工部	同	同	上
長官	同	同	上
司法部長	同	同	上

法令 (第四號)



附則  
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮人タル朝鮮總督府道長官、參典官及郡守ノ任用及官等ニ關スル件  
明治四十三年九月二十九日勅令第三百八十三號  
朝鮮人タル朝鮮總督府道長官、道參典官及郡守ハ文官任用令及高等官官等俸給令第四條ノ規定ニ拘ラス學識經驗アル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則  
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣滿韓及樺太在勤文官加俸令中改正ノ件  
明治四十三年九月二十九日勅令第三百八十四號  
臺灣滿韓及樺太在勤文官加俸令中「臺灣滿韓」ヲ「朝鮮臺灣滿洲」ニ、「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改ム

附則  
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府職員ノ交際手當ニ關スル件  
明治四十三年九月二十九日勅令第三百八十五號

朝鮮總督ニハ年額一萬五千圓、政務總監ニハ七千圓、外事局長ニハ二千圓以内ノ交際手當ヲ給ス

附則  
本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府武官及副官ノ給與ニ關スル件  
明治四十三年九月二十九日勅令第三百八十六號

朝鮮總督府武官及專屬副官ニハ在勤俸ヲ給ス其ノ年額ハ將官二千五百圓以内、佐官二千圓以内、尉官一千圓以内トス

前項ノ職員ニ對スル在勤俸及陸海軍ノ規定ニ依ル給與ハ朝鮮總督府ニ於テ之ヲ支給ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員ニシテ通譯ノ事ヲ兼掌スル者ノ特別手當ニ關スル件  
明治四十三年九月二十九日勅令第三百八十七號  
朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官、巡查、看守及女監取締ニシテ朝鮮語通譯ノ事ヲ兼掌スル者ニハ別表ニ依リ特別月手當ヲ支給スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ朝鮮人ニシテ判任文官、巡查、看守及女監取締ト爲リ國語通譯ノ事ヲ兼掌スル者ニモ之ヲ適用ス  
手當ノ支給ニ關スル規程ハ朝鮮總督府之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

判任文官	一級	十圓	二級	八圓	三級	六圓	四級	四圓
巡查、看守、女監取締	七圓	五圓	三圓	三圓	二圓	二圓	二圓	二圓

●内國旅費規則中改正ノ件 明治四十三年九月二十九日 勅令第三百九十一號  
 内國旅費規則第二十條及第二十一條中「臺灣」ヲ「朝鮮、臺灣」ニ改ム  
 附則  
 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

參照

●内國旅費規則

明治四十三年六月十七日 勅令第二百七十四號

- 第一條 官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食料、手當及移轉料ノ八種トシ別表ニ定ムル所ニ從ヒ順路ニ依リテ之ヲ支給ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル道路ニ依ル
- 第三條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス
- 第四條 鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス
- 第五條 宿泊料ハ夜數ニ應ジ日當ハ日數ニ應ジテ之ヲ支給ス
- 第六條 本旅路行ニハ宿泊料ヲ支給セズ但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官用ノ船ヲ爲ササルトキハ食料料ヲ支給ス
- 第七條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムテ得サル事由ノ爲メシタル日數ヲ除ク外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス
- 第八條 赴任ノ場合ニ於テハ別ニ移轉料及舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル鐵道賃、船賃及車馬賃ノ額ニ相當スル赴任手當ヲ支給ス
- 第九條 官用ノ船、車馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セズ
- 第十條 陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ依リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除ク外其ノ支給スベキ日當ハ定額ノ半額トス

法令 (第四號)

一一七

- 第一條 一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト算シ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第二條 第九條 在勤務所在地ノ市區町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ港、埠、キハ定額半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得
- 第三條 第十條 私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滞在スル者轉任ヲ命セラレ又ハ新任ニ任命セラレ居在地位ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滞在地位ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヲ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヲ支給ス前項ノ規定ハ私事ノ爲任地以外ニ滞在スル者滞在地位ヨリ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第四條 第十一條 新任ニ任命セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ薪官相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第五條 第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得
- 第六條 第十三條 鐵道賃、船賃又ハ車馬賃ハ各其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス
- 第七條 第十四條 通算上ニ一哩、一海里又ハ一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス
- 第八條 第十五條 年數又ハ日數ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テハ其ノ區分列明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日數ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス
- 第九條 第十六條 旅行中退官、退職、休職又ハ非職ト爲リタル者ニハ舊任地ニ至ル前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ先官シ又ハ免官セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十條 第十七條 前項ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第十一條 第十八條 旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス
- 第十二條 第十九條 事務引續事務調理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第十三條 第二十條 所管大臣ハ測量土木工事等ノ爲現場ヲ巡視スル官吏又ハ常時旅行ヲ要スル官吏ニ關シテ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十四條 第二十一條 所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得
- 第十五條 第二十二條 武官、陸海軍文官、鐵道事務ニ從事スル官吏及警察官ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ム
- 第十六條 第二十三條 職員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シテ之ヲ定ム
- 第十七條 第二十四條 當分ノ内務省又ハ樞密院ノ旅行ニ限リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅費ノ定額ヲ増加スルコトヲ得
- 第十八條 第二十五條 當分ノ内務省又ハ樞密院ノ旅行ニ限リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅費ノ定額ヲ減少スルコトヲ得

前官又は本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官セリ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官者ハ退職シタル者ハ此ノ限ニ在ラス  
 前項ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大臣ト協議シテ之ヲ定ム  
 在職中死シタルトキハ第一項ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得  
 第二十二條 樞大臣ニ赴任スル者及十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内ニ樞大臣ニ出張スル當分ノ内支度料ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ所管大臣大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年七月一日ニリ之ヲ施行ス  
 本令施行前轉任シ命セラル新ニ任用セラレシ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル場合又ハ退官、退職、休職、非職ト爲リ若ハ死亡シタル場合ニ關シテハ舊令ニ依ル

(別表)

等	級	旅費額
一	親任	鐵道賃二付 船賃二海里 車馬賃二付 宿泊料二付 日常二付 食料二付 移轉料
二	勅任	六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百
三	奏任	五等以上 四等 五等以下 六等 七等 八等 九等 十等 十一等 十二等 十三等 十四等 十五等 十六等 十七等 十八等 十九等 二十等 二十一等 二十二等 二十三等 二十四等 二十五等 二十六等 二十七等 二十八等 二十九等 三十等 三十一等 三十二等 三十三等 三十四等 三十五等 三十六等 三十七等 三十八等 三十九等 四十等 四十一等 四十二等 四十三等 四十四等 四十五等 四十六等 四十七等 四十八等 四十九等 五十等 五十一等 五十二等 五十三等 五十四等 五十五等 五十六等 五十七等 五十八等 五十九等 六十等 六十一等 六十二等 六十三等 六十四等 六十五等 六十六等 六十七等 六十八等 六十九等 七十等 七十一等 七十二等 七十三等 七十四等 七十五等 七十六等 七十七等 七十八等 七十九等 八十等 八十一等 八十二等 八十三等 八十四等 八十五等 八十六等 八十七等 八十八等 八十九等 九十等 九十一等 九十二等 九十三等 九十四等 九十五等 九十六等 九十七等 九十八等 九十九等 一百
四	判任	五等以下 六等 七等 八等 九等 十等 十一等 十二等 十三等 十四等 十五等 十六等 十七等 十八等 十九等 二十等 二十一等 二十二等 二十三等 二十四等 二十五等 二十六等 二十七等 二十八等 二十九等 三十等 三十一等 三十二等 三十三等 三十四等 三十五等 三十六等 三十七等 三十八等 三十九等 四十等 四十一等 四十二等 四十三等 四十四等 四十五等 四十六等 四十七等 四十八等 四十九等 五十等 五十一等 五十二等 五十三等 五十四等 五十五等 五十六等 五十七等 五十八等 五十九等 六十等 六十一等 六十二等 六十三等 六十四等 六十五等 六十六等 六十七等 六十八等 六十九等 七十等 七十一等 七十二等 七十三等 七十四等 七十五等 七十六等 七十七等 七十八等 七十九等 八十等 八十一等 八十二等 八十三等 八十四等 八十五等 八十六等 八十七等 八十八等 八十九等 九十等 九十一等 九十二等 九十三等 九十四等 九十五等 九十六等 九十七等 九十八等 九十九等 一百

朝鮮總督府及所屬官署職員ノ宿舎料ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百九十二號  
 朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員ニハ宿舎料ヲ給ス但シ官舎ニ居住セシムル者ハ此ノ限ニ在ラス

宿舎料ノ額及方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム  
 本令ハ朝鮮人タル職員ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府及所屬官署職員特別任用令 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百九十四號

第一條 本令施行ノ際現ニ統監府參與官ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得  
 第二條 本令施行ノ際現ニ於テ奏任文官又ハ奏任官待遇ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ文官高等試驗委員ノ銜ヲ經テ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得  
 第三條 本令施行ノ際現ニ於テ判任文官又ハ判任官待遇ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限リ文官普通試驗委員ノ銜ヲ經テ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得  
 第四條 朝鮮總督府外事局ニ勤務スル職員カ外交官、領事官、貿易事務官又ハ外務省高等官ニ轉任スル場合ニ於テハ朝鮮總督府ノ在職ヲ以テ在外公館ノ在職ト看做ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮人タル官吏ノ特別任用ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百九十六號

第一條 朝鮮人ニシテ本令施行ノ際現ニ高等官ノ待遇ヲ受クル者ハ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ文官ニ任用スルコトヲ得

法令(第四號)

第二條 朝鮮人ニシテ舊韓國政府ノ高等文官ノ職ニ在リタル者又ハ舊韓國政府ノ高等文官タル資格ヲ有シタル者ハ當分ノ内文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ文官ニ任用スルコトヲ得

第三條 朝鮮人ニシテ本令施行ノ際現ニ判任官ノ待遇ヲ受クル者ハ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第四條 朝鮮人ニシテ舊韓國政府ノ判任官ノ職ニ在リタル者又ハ舊韓國政府ノ判任官タル資格ヲ有シタル者ハ當分ノ内文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條 朝鮮人ニシテ朝鮮總督ノ定メタル試験ニ合格シタル者ハ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十三年勅令第三百號等中改正ノ件 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百二號

明治四十三年勅令第三百號及同年勅令第三百二號中「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ「韓國」ヲ「朝鮮」ニ「憲兵將校」ヲ「憲兵ノ長タル將官、憲兵將校」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

參照 明治四十三年勅令第三百號統監府警務官職員ノ官等等級ニ關スル件  
 第三百二號、統監府警務總長以下任用及分限ニ關スル件

●朝鮮人タル文官ノ分限及給與ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百三號

第一條 朝鮮人タル文官ニ關シテハ文官分限令及朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令ヲ適用セス

第二條 朝鮮人タル文官ノ俸給ハ別表ニ依ル

第三條 朝鮮人タル文官ノ旅費ニ關スル規程ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

高等文官年俸表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
二,500	1,700	1,400	1,200	1,000	900	800	700	600	500		

道長官ニハ年俸三千圓ヲ給スルコトヲ得

判任文官月俸表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
500	450	400	350	300	250	200	150	100	100

●文官懲戒令中改正ノ件 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百四號

文官懲戒令中左ノ通改正ス

第二十二條中「統監府」ヲ「朝鮮總督府」ニ改ム

第二十三條中「統監府ニ在リテハ總務長官」ヲ「朝鮮總督府ニ在リテハ政務總監」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府及所屬官署職員ノ服制ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百五號

統監府及所屬官署並朝鮮鐵道管理局職員ノ服制ハ當分ノ内朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ服制トシテ之ヲ費用ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府特別會計ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百六號

第一條 朝鮮總督府ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ

第二條 前條ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 政府ハ毎年朝鮮總督府特別會計ノ歳入歳出豫算ノ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附則

第四條 本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 鐵道、森林、平壤鑛業所及公債金ノ特別會計並通信ノ會計ニ付テハ明治四十三年度分限リ仍

從前ノ例ニ依ル

第六條 舊韓國政府ニ屬シタル債權及債務ニシテ本令施行ノ際現存スルモノハ本會計ニ移屬ス

第七條 明治四十三年勅令第三百二十六號ニ依ル豫算ニ關スル會計年度ハ明治四十三年九月三十日ヲ以テ終結ス

前項ノ豫算ニ計上シタルニ時借入金ハ本會計ノ負擔ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ノ歳入歳出並統監府及其ノ所屬官署ニ係ル歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ明治四十三年十二月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第九條 第七條ノ經費並統監府及其ノ所屬官署ノ經費ノ支辨ニ屬スル工事又ハ製造ニシテ明治四十三年九月三十日迄ニ經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條 前條ノ經費支辨ノ諸費ニシテ既ニ契約ヲ爲シ又ハ仕拂義務ヲ生シ明治四十三年九月三十日迄ニ支出ヲ終ラサルモノハ其ノ支出未済ノ豫算額ヲ本會計ニ移シ使用スルモノトス

第十一條 第七條ノ會計ノ過不足ハ之本會計ニ移シ整理ス

●朝鮮總督府特別會計規則 明治四十三年九月二十九日 勅令第四百七號

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月卅一日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ朝鮮總督ヲ以テ仕拂命令官トシ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル仕拂命令ヲ發セシム

朝鮮總督ハ部下ノ官吏ニ分任シテ朝鮮總督府特別會計ニ屬スル仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第三條 朝鮮總督ハ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定シ仕拂計算書ヲ調製シ金庫ニ送付スヘシ仕拂計算書ヲ更定シタルトキ亦同シ

第四條 朝鮮總督ハ年度内一時收入金額ニ不足ヲ生スルトキハ其ノ不足金額ヲ豫定シ所管大臣ヲ經

由シテ大藏大臣ニ仕拂元金ノ繰替ヲ請求スヘシ  
 大藏大臣ハ前項ノ請求ナキトキハ仕拂元金ニ超過シタル仕拂命令ノ仕拂ヲ停止スルコトアルヘシ  
 第五條 朝鮮總督ハ會計規則第十八條ノ規定ニ基キ發シタル勅令ニ依リ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタルトキハ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り所管大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ通知スヘシ  
 第六條 大藏大臣第一豫備金支出ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ  
 第七條 朝鮮總督ハ土地ノ情況ニ依リ會計規則第六十九條、第七十三條及第七十九條ノ期限ヲ短縮シ又ハ第六十九條ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得  
 第八條 歳入歳出ノ決定計算書ハ豫定計算書ト同一ノ區分ニ據リ所管大臣之ヲ調製シ翌年度十一月三十日迄ニ大藏大臣ニ送付スヘシ  
 第九條 本令ニ規定セサルモノハ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督ノ指定スル官署ノ經費渡切ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日勅令第四百九號

第一條 朝鮮總督ハ其ノ特ニ指定シタル通信官署、區裁判所、警察官署、税關監視署、郡及面ニ限リ經費ノ一部ヲ渡切ヲ以テ當該吏員ニ交付スルコトヲ得  
 前項歳出科目ノ區分ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム  
 第二條 渡切經費ハ年額ニ依リ月割額ヲ定メ毎月之ヲ交付ス但シ特殊ノ事由又ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ一時ニ數月分ヲ交付スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮ニ施行スル法律ニ關スル件 明治四十三年九月二十九日勅令第四百十二號

左ニ掲グル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

- 一 會計法
- 一 郵便法
- 一 郵便爲替法
- 一 鐵道船舶郵便法
- 一 明治二十三年法律第二十二號 (郵便貯金爲替取立金特別會計ノ件)
- 一 電信法
- 一 郵便貯金法
- 一 逃亡犯罪人引渡條例 (二〇年勅令第四二號)
- 一 外國艦船乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法 (同)

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●恩賜公債規程

明治四十三年九月五日大藏省令第四十二號

第一條 明治四十三年勅令第三百二十七號ニ依リ發行スル恩賜公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證券トス但シ證券ニハ記號ヲ附セシ  
 第二條 本公債ノ元金ハ發行ノ年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ之ヲ償還ス

法令 (第四號)

第三條 本公債初期ノ利子ハ恩賜辭令書ノ日附ノ属スル月ヨリ之ヲ附シ元金償還ノトキハ其ノ償還ノ月迄之ヲ附ス

第四條 本公債ノ利子ハ毎年三月及九月ニ於テ其ノ月以前六箇月間ニ属スルモノヲ仕拂フ

第五條 本公債ノ利子ハ日本銀行及其ノ代理店並朝鮮總督ノ特ニ指定シタル郵便局所ニ於テ之ヲ仕拂フ

第六條 本公債ノ登錄變更、登錄除却又ハ質權ニ關スル登錄ヲ請求スル者ハ其ノ請求書ニ朝鮮總督ノ認可書ヲ添附スヘシ但シ相續ニ因ル登錄ノ變更及權利ノ移轉ニ因ラサル登錄ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條 本令ニ規定スルモノノ外本公債ノ取扱ニ關シテハ國債規則ニ依ル

●水道上水保護規則 明治四十三年九月二十九日 統監府令第六十一號

第一條 水道上水保護區域内ニ於テ瓦礫、塵芥、動物ノ屍體等ヲ投棄シ又ハ家畜放飼、捕鳥、漁獵、游泳、洗濯其ノ他水質ヲ汚損スヘキ行為ヲ爲スヘカラス

第二條 水道上水保護地域内ニ於テ家屋其ノ他建造物ヲ作り又ハ田畝ヲ開墾シ若ハ土地ノ形狀ヲ變更セムトスルトキハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 第一條及第二條ニ違反シ水道上水保護ニ障礙ヲ生シタルトキハ警察官署ハ期間ヲ指定シ障礙除去ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

前項ニ依リ施設ヲ命セラレタル者其ノ期間内ニ之ヲ行ハサルトキハ當該官署ハ自ラ之ヲ行ヒ又ハ第三者ヲシテ之ヲ行ハシメ其ノ費用ハ義務者ヨリ徴收スルコトアルヘシ

第四條 水道上水保護區域ハ警務總長又ハ警務部長之ヲ定ム

第五條 本則ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●統監府裁判所令中改正ノ件 明治四十三年十月一日 制令第五號

統監府裁判所令中左ノ通改正ス

「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ、「韓國」ヲ「朝鮮」ニ、「韓國法規」ヲ「舊韓國法規」ニ、「韓國刑法大全」ヲ「刑法大全」ニ改ム

第三條第三項ヲ左ノ如ク改ム

高等法院ハ前項ノ外裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ属スル職務ヲ行フ

第二十四條 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前統監府裁判所ニ於テ受理シタル訴訟事件及非訴訟事件ハ現在ノ儘管轄ニ關スル規定ニ從テ相當ノ區裁判所、地方裁判所、控訴院又ハ高等法院ニ移ルモノトシ既ニ爲シタル裁判ハ第一審、第二審及終審ノ區別ニ從ヒ各其ノ相當裁判所ノ爲シタルモノト看做ス

●朝鮮總督府判事及檢事ノ任用ニ關スル件 明治四十三年十月一日 制令第六號

朝鮮總督府判事及檢事ハ裁判所構成法ニ依リ判事、檢事又ハ司法官候補タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

朝鮮總督府判事ノ職ニ在ル者ハ朝鮮總督府檢事ニ、朝鮮總督府檢事ノ職ニ在ル者ハ朝鮮總督府判事ニ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際統監府判事又ハ檢事ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限り特ニ之ヲ朝鮮總督府判事又ハ檢事ニ任用スルコトヲ得

●朝鮮人タル朝鮮總督府裁判所職員ノ任用ニ關スル件

第一條 帝國大學、官立專門學校又ハ朝鮮總督ノ指定シタル學校ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メ卒業シタル朝鮮人ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府判事又ハ檢事ニ任用スルコトヲ得

第二條 本令施行ノ際現ニ統監府判事又ハ檢事タル朝鮮人ハ特ニ之ヲ朝鮮總督府判事又ハ檢事ニ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十三年制令第一號ニ依ル命令ノ區分ニ關スル件

明治四十三年制令第一號ニ依リ現ニ效力ヲ有スル命令ニシテ其ノ制令ヲ以テ定ムルコトヲ要スル事項ヲ規定シタルモノハ制令、其ノ朝鮮總督府令ヲ以テ定ムルコトヲ得ル事項ヲ規定シタルモノハ朝鮮總督府令、其ノ警務總監部令ヲ以テ定ムルコトヲ得ル事項ヲ規定シタルモノハ警務總監部令、其

ノ道令ヲ以テ定ムルコトヲ得ル事項ヲ規定シタルモノハ道令、其ノ警務部令ヲ以テ定ムルコトヲ得ル事項ヲ規定シタルモノハ警務部令ヲ以テ定ムルモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●出版物ニ關シ願届ノ件

明治四十三年五月二日統監府令第二十號出版物規則ニ依リ統監府ニ提出スル願届及出版物ハ統監府警務總監部ヲ經由スヘシ

●朝鮮總督府令公文式ノ件

第一條 朝鮮總督府令ハ其ノ朝鮮總督府令ナルコトヲ明記シ總督之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ之ヲ公布ス

第二條 朝鮮總督府令ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公布ス

第三條 朝鮮總督府令ハ特ニ施行期日ヲ掲ケルモノヲ除クノ外其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府警務總監部令公文式

第一條 朝鮮總督府警務總監長ノ發スル命令ハ其ノ警務總監部令ナルコトヲ明記シ警務總監長之ニ署名

シ公布ノ年月日ヲ記入シテ之ヲ公布ス  
 第二條 警務總監部令ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ布告ス  
 第三條 警務總監部令ハ特ニ施行期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外其ノ各官廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府警務部令公文式 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第四號

第一條 朝鮮總督府警務部長ノ發スル命令ハ其ノ警務部令ナルコトヲ明記シ警務部長之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ之ヲ公布ス

第二條 警務部令ハ布告スル方法ハ警務部長之ヲ定ム

第三條 警務部令ハ特ニ施行期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿七日ヲ經テ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府ニ提出スル願届ニ關スル件 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第五號

朝鮮總督府ニ提出スル願届書等ハ法令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外ハ總テ其ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●道ノ位置及管轄區域ノ件 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第六號

地方官官制第一條ニ依リ道ノ位置及管轄區域左ノ通定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名稱	位置	管轄區域	各稱	位置	管轄區域
京畿道	京城	從來ノ漢城府及京畿道一圓	黃海道	海州	從來ノ黃海道一圓
忠清北道	清州	從來ノ忠清北道一圓	江原道	春川	從來ノ江原道一圓
忠清南道	公州	從來ノ忠清南道一圓	平安南道	平壤	從來ノ平安南道一圓
全羅北道	全州	從來ノ全羅北道一圓	平安北道	義州	從來ノ平安北道一圓
全羅南道	光州	從來ノ全羅南道一圓	咸鏡南道	咸興	從來ノ咸鏡南道一圓
慶尙北道	大邱	從來ノ慶尙北道一圓	咸鏡北道	鏡城	從來ノ咸鏡北道一圓
慶尙南道	慶州	從來ノ慶尙南道一圓			

●府及郡ノ名稱及管轄區域ノ件 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第七號

地方官官制第十七條ニ依リ府及郡ノ名稱及管轄區域左ノ通定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各稱	位置	管轄區域	各稱	位置	管轄區域
京城府	京城	從來ノ漢城府一圓	鎮南浦府	鎮南浦	從來ノ三和府一圓
仁川府	仁川	從來ノ仁川府一圓	義州府	新義州	從來ノ義州府一圓
群山府	群山	從來ノ沃溝府一圓	元山府	元山	從來ノ德源府一圓
木浦府	木浦	從來ノ務安府一圓	清津府	清津	從來ノ富寧郡一圓
大邱府	大邱	從來ノ大邱府一圓	咸興郡	咸興	從來ノ咸興府一圓
釜山府	釜山	從來ノ東萊府一圓	慶興郡	慶興	從來ノ慶興府一圓
馬山府	馬山	從來ノ昌原府一圓	龍川郡	龍川	從來ノ龍川府一圓
平壤府	平壤	從來ノ平壤郡一圓			

以上列記ノ外各郡ノ名稱位置及管轄區域ハ渾テ從前ノ通トス

●面ニ關スル規程 明治四十三年十月八日  
朝鮮總督府令第八號

朝鮮總督府地方官制第二十五條ニ依リ面ニ關スル規程左ノ通定ム

第一條 面ノ名稱及區域ハ從前ノ例ニ依ル

第二條 面長ハ道長官之ヲ任免ス

第三條 面長ノ手當並事務執行ニ要スル費用ハ面ノ負擔トス  
前項經費ノ支出並負擔ノ方法ハ道長官ノ認可ヲ得テ府尹又ハ郡守之ヲ定ム

第四條 本令ニ面ト稱スルハ社坊部其ノ他何等ノ名稱ヲ用ウルニ拘ラス面ニ該當スルモノヲ謂フ

第五條 本令施行ノ際面長又ハ面長ニ該當スル職務ニ在ル者ハ總テ本令ニ依リ其ノ職ニ任セラレタル者ト看做ス

第六條 本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●朝鮮總督府裁判所ノ名稱位置及管轄區域ノ件 明治四十三年十月一日  
朝鮮總督府令第九號

朝鮮總督府裁判所ヲ設置シ其ノ名稱、位置及管轄域ヲ別表ノ通定ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年統監府第二十八號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

朝鮮總督府裁判所ノ名稱、位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
高等法院	京城	京城府、楊州、高陽、永平、抱川、加平
控訴院	京城	京城府、楊州、高陽、永平、抱川、加平
地方裁判所	京城	京城府、楊州、高陽、永平、抱川、加平
區裁判所	京城	京城府、楊州、高陽、永平、抱川、加平
道名	府	郡
驪州	驪州、陰竹、利川、陽平	驪州、陰竹、利川、陽平

法令 (第四號)

海州	楚山	江界	寧邊	定州	義州	新義州	松禾	載寧	鎮南	德川	安州	平壤	慶興	會寧	咸興	鏡城	清津	蔚珍
興州	山	界	邊	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州
黃海道						平安北道		黃海道				平安南道						
瑞興、遂安、谷山、新溪、平山、金川、鬼山	楚山、碧浪、渭原	江界、慈城、厚昌	寧邊、泰川、雲山、熙川	定州、郭山、宣川、龜城、嘉山、博川	義州府、內古城、面、光城、面、古邑、面、枇岬、面、津留、面、威化、面、咸遠、面、月化、面、除、州、昌城	義州府、龍川、鐵山	松禾、長淵、殷栗	載寧、安岳、信川	鎮南府、龍岡、江西、甌山	德川、寧邊、孟山	安州、肅川、永柔、价川、順川	平壤府、中和、祥原、江東、成川、陽德、順安	慶興、慶源	會寧、鐘城、穆城	咸興、吉州	鏡城、明川	清津府、茂山	蔚珍、平海、三陟

一三五

法令

江陵	永興	元山	北青	咸興	忠州	永清	清州	天安	瑞山	洪州	鴻山	江原	大田	公州	原州	鐵原	春川	仁川	水原
江原道	興	山	青	興	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州	州
江原道			咸鏡南道		忠清北道								忠清南道						
江陵、襄陽、杆城	永興、高原	元山府、文川、安邊、江原道、內高城、通川	北青、利原、端川、甲山、三水	咸興、定平、長津、洪原	忠州、陰城、槐山、延豐、清風、堤川、永春、丹陽	永同、沃川、黃淵	清州、鎮川、清安、文義、懷仁、報恩、青山	天安、木川、全義、稷山、平澤、牙山、新昌、溫陽	瑞山、海美、泰安	洪州、結城、青陽、大興、禮山、德山、河川、唐津	鴻山、庇仁、舒川、藍浦、保寧、鰲川、內於青島、除之	江原、扶餘、魯城、恩津、林川、韓山、鰲川、內於青島	懷德、鎮岑、連山	公州、定山、燕岐	原州、橫城、洪川、平昌、旌善、寧越	鐵原、安城、伊川、平康、金城、淮陽、金化	春川、華川、楊口、麟蹄	仁川府、富平、陽川、金浦、通津、江華、喬桐	水原、果川、始興、安山、南陽、廣州、龍仁、陽智、振威

一三四

REEL No. 1-0465

0511





朝鮮總督府巡查補ノ採用ニ付テハ左ノ變更ヲ以テ同規則ヲ準用ス

一 技藝ノ試験ハ刑法、刑事訴訟法、警察法規、歴史及地理ノ一部ヲ省略シ國語及讀書ヲ加フルコトヲ得但シ滿二年以上舊韓國巡查ノ職ニ在リテ退職後滿二年ヲ經過セサル者、舊韓國ノ判任文官ノ職ニ在リタル者及舊韓國ノ文官任用ニ關スル規定ニ依リ一般判任文官タル資格ヲ有シタル者ハ試験ヲ要セス

二 志願者ハ巡查採用規則第二條ノ外尙ホ舊韓國ノ刑法ニ依リ禁獄以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊韓國ノ懲戒ニ關スル規定ニ依リ官職ヲ免セラレ滿二年ヲ經過セサル者ト非サルコトヲ要ス

憲兵補助員ノ職ニ在ルモノハ巡查補ニ採用スルコトヲ得但シ其ノ給額ハ補助員給與額相當以下トス

第二條 朝鮮總督府巡查ノ給與ニ付テハ巡查給與令ヲ準用シ朝鮮總督府巡查補ノ給與ニ付テハ左ノ變更ヲ以テ巡查給與令ヲ準用ス

一 月俸ハ七圓乃至十六圓トス但シ教習中ハ六圓トス

二 初任者ノ月俸ハ九圓以下トス

三 月俸ノ増給ハ二圓以下トス

四 増俸期間ノ制限ヲ受クル月俸ハ十圓以上トス

第三條 朝鮮總督府巡查ニハ加俸ヲ給ス但シ朝鮮人ハ此ノ限ニ在ラス

加俸額ハ月俸十五圓以上ハ月俸ト同額トシ月俸十四圓以下ハ十五圓トス

第四條 朝鮮總督府巡查及朝鮮總督府巡查補ニシテ刑事、通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有シ其ノ勤務ニ服セシムルモノニハ左ノ區別ニヨリ特別月手當ヲ支給スルコトヲ得

等 級	一 級	二 級	三 級	四 級	五 級
内地人タル巡查	十圓	七圓	四圓	三圓	二圓
朝鮮人ノ巡查及巡查補	五圓	四圓	三圓	二圓	一圓

特別月手當支給ノ方法ニ關シテハ月俸支給ノ例ニ依ル

第五條 朝鮮總督府巡查ニシテ官舎ヲ給セサル者ニハ左ノ區別ニヨリ宿料ヲ給ス但シ朝鮮人ハ此ノ限ニ在ラス

一 等 地 一箇月金十圓

二 等 地 一箇月金八圓

三 等 地 一箇月金七圓

四 等 地 一箇月金六圓

五 等 地 一箇月金五圓

六 等 地 一箇月金四圓

七 等 地 一箇月金三圓

土地ノ等級ハ警務總長之ヲ指定ス

第六條 宿料ハ著任ノ翌日ヨリ出發ノ日迄支給ス

附 則

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 從來施行ノ舊韓國法規ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●朝鮮總督府及所屬官署職員ノ加俸ニ關スル件 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第十五號  
 朝鮮總督府及所屬官署職員ノ加俸ハ高等官ニ在リテハ本俸ノ十分ノ四、判任官ニ在リテハ五級俸以上ハ本俸ノ十分ノ六、六級俸以下ハ三十圓トス但シ特ニ辭令ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府巡查及同巡查補俸給ニ關スル件 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第十六號

朝鮮總督府警察官署官制施行ノ際統監府巡查ノ職ニ在ル内地人ハ現ニ受クル俸給及手當ノ半額(以下ハ切捨トス)ニ相當スル額ヲ以テ本俸トシ朝鮮總督府巡查ニ統監府巡查及統監府巡查補ノ職ニ在ル朝鮮人ハ現ニ受クル俸給額ヲ以テ朝鮮總督府巡查又ハ巡查補ニ採用セラルモノトス  
 前項ニ依リ採用セラレタル者ハ勤績者ト看做ス

●條約ニ依リ居住ノ自由ヲ得サル外國労働者ニ關スル件 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第十七號

明治四十三年統監府令第五十二號第一項ノ労働者ハ農業漁業鑛業土木建築製造運搬挽車仲仕業其ノ他雜役ニ關スル労働ニ從事スル者ヲ謂フ但シ家事ニ關スル労働ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラス  
 前項ノ労働者ニ與ヘタル許可ハ地方長官ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府通信官署徽章、通信日付印及郵便切手類模造取締規則 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第十八號

朝鮮總督府令第十八號

第一條 朝鮮總督府通信官署徽章ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス  
 第二條 通信官署ニ於テ使用スル通信日付印ニ紛ハシキ印影ヲ描出スヘキモノ又ハ之ニ紛ハシキ印影ヲ有スルモノハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

第三條 未使用又ハ使用済ノ帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行ニ係ル現行郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表シスヘキ證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ印刷製造販賣頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

第四條 第一條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ科料ニ處ス第二條及第三條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本規則ハ明治四十三年十月一日ヨリ施行ス

●朝鮮總督府所屬官署經費渡切規則 明治四十三年十月一日 朝鮮總督府令第二十一號

第一條 明治四十三年九月勅令第四百九號ニ依リ渡切經費ノ交付ヲ受クヘキ官署及費目左ノ如シ

- 一 巡查駐在所
- 一 區裁判所(地方區裁判所所在地ヲ除ク)
- 一 税關監視署
- 一 郡(道所在地ヲ除ク)

應費

備品費 雜品

法 令 (第四號)

筆紙墨文具但シ式紙、式簿ヲ除ク  
 消耗品 薪炭油類、雜用品  
 雜給及雜費  
 備人料  
 一 測候所、燈臺  
 航路標識及觀測費ノ内備品ニ屬スル雜品、郵便料、筆紙墨文具（式紙、式簿ヲ除ク）消耗品ニ  
 屬スル薪炭油類、雜用品、備人料  
 一 郵便局所  
 豫算ニ於テ定メタル渡切費トス  
 内譯  
 一 消耗品 現品ヲ以テ交付スルモノ及備品トシテ整理スルモノヲ除ク  
 二 圖書購買費  
 三 薪炭費  
 四 點燈費  
 五 通信運搬費  
 六 備人料  
 七 郵便局特別集配費  
 八 郵便所以下通信官署ノ事務費、集配費、遞送費  
 九 船舶、車輛ニ要スル雜費  
 十 賄費

十一 雜費

第二條 各部長官ハ前條ノ範圍内ニ於テ渡切經費ノ額ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ經テ各官署ニ令達  
 シ當該所管仕拂命令官若ハ現金前渡ヲ受クル官吏ニ通知シ其ノ官署名及交付スル經費種目ハ朝鮮  
 總督府官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ  
 第三條 仕拂命令官若ハ現金前渡ヲ受クル官吏ハ前條ノ通知ニ基キ毎月上旬ニ各官署ノ長又ハ上席  
 者ニ現金ヲ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ但シ郵便所及郵便所ノ經費ニ在リテハ翌月以降ニ於テ之ヲ  
 交付ス  
 第四條 渡切經費ハ時宜ニ依リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ此ノ場合  
 ニ於テハ前條ノ交付額ヨリ其ノ額ヲ控除ス  
 第五條 渡切經費ニ對シテハ官署員全體共同經理ノ責ニ任シ現金及物品ノ出納ニ關シテ其ノ擔任者  
 一切ノ責ニ任スヘシ  
 第六條 第一條ニ指定スル所ノ費途ノ仕拂ニ關シテハ官職名ヲ以テスルト否トニ拘ラス總テ出納擔  
 任者ノ責任トシ政府其ノ責ニ任セス  
 第七條 渡切經費ヲ交付スヘキ官署ヲ指定シタルトキ又ハ廢止シタルトキハ日割計算ヲ以テスヘシ  
 渡切經費ニ増減ヲ生シタルトキ亦同シ  
 第八條 現金及物品ノ出納擔任者ハ便宜帳簿ヲ備ヘ其ノ受拂ヲ登記シ證憑書類ハ適宜編纂シテ保存  
 スヘシ但シ郵便所及郵便所ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得  
 第九條 出納擔任者交替ヲ爲シタルトキハ後任者立會ノ上帳簿ノ締切ヲ爲シ現金品及證憑書類ト共  
 ニ受授ヲ爲スヘシ  
 第十條 出納擔任者月ノ中間ニ交替若ハ死亡シタルトキハ少クトモ其ノ月殘餘ノ日數ニ對スル日割

額ニ相當スル現金及物品ヲ後任者ニ引継クヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ當該官署ノ長特ニ職員ニ命シテ精算セシムヘシ若シ官署員一人ナルトキハ後任者之ヲ精算スヘシ  
郵便所及郵便所ニ在リテハ交替又ハ死亡ノ當日迄ヲ以テ計算シ後任ノ所長ニ交付ス  
第十一條 本令施行ニツキ細則ヲ要スルモノハ各監督官廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ  
附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮總督府旅費規則 明治四十三年十月一日  
朝鮮總督府令第二十四號

第一條 判任官以上ノ者朝鮮内旅行ノ場合ニ於テハ第一號表ニ依リ旅費ヲ支給ス  
第二條 待遇官吏内地又ハ朝鮮内旅行ノ場合ニ於テハ勅任官待遇ノ者ハ勅任官、試補其ノ他委任官待遇ノ者ハ委任官六等以下、見習其ノ他判任官待遇ノ者ハ判任官六級俸以下ノ額ニ相當スル旅費ヲ支給ス  
第三條 勅託員又ハ雇員内地又ハ朝鮮内旅行ノ場合ニ於テハ手当又ハ給料月額三百圓以上ヲ受クル者ハ委任官五級俸以上、其ノ二百圓以上ヲ受クル者ハ委任官六等以下、其ノ百圓以上ヲ受クル者ハ判任官五級俸以上、其ノ五十圓以上ヲ受クル者ハ判任官六級俸以下ノ額ニ相當スル旅費ヲ支給ス  
第四條 勅託員、雇員ニシテ日給ヲ受クル者若シ月額五十圓未満ノ手当給料ヲ受クル者及巡査看守内地又ハ朝鮮内旅行ノ場合ニ於テハ第二號表ニ依リ旅費ヲ支給ス  
第五條 傭人内地又ハ朝鮮内旅行ノ場合ニ於テハ第三號表ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ諸職工等其ノ業務ニ從事シ賃銀ヲ受クル日ハ日當、宿泊料及食卓料ヲ支給セス  
第六條 囑託員、雇員又ハ巡査看守ノ赴任ニハ赴任手當、傭人ノ赴任ニハ移轉料及赴任手當ヲ支給ス

第七條 測量、土木工事等ノ爲現場ヲ巡回スル職員又ハ常時旅行ヲ要スル職員ニ對シ月額若ハ日額ヲ定メ旅費ヲ支給スル必要アル場合又ハ旅費ノ定額ヲ減少シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セザル必要アル場合ニ關シテ總督之ヲ定ム

第八條 一日中用務ニ依リ旅費ヲ支給額ヲ異ニスル場合ニ於テハ其ノ多額ヲ支給ス  
第九條 内地ヨリ朝鮮ニ旅行スルトキハ朝鮮最初ノ著船地迄ヲ内地旅行トシ朝鮮ヨリ内地ニ旅行スルトキハ朝鮮最後ノ著船地迄ヲ朝鮮内旅行トシ各其ノ旅費ヲ支給ス但シ内地ヨリ朝鮮へ著船當日ハ朝鮮旅行ノ日當、朝鮮ヨリ内地へ乘船當日ハ内地旅行ノ日當ヲ支給ス  
第十條 判任官以上ノ者朝鮮ニ於ケル勤続二年以上ニシテ退官又ハ休職ト爲リ三十日以内ニ朝鮮ヲ出發歸郷スルトキハ内國旅費規則ノ定額ニ依リ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第十一條 判任官以上ノ者在職中死亡シタルトキハ勤続年數ニ拘ラス前條ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス  
第十二條 内地ニ旅行中退官若ハ休職ト爲リ又ハ死亡シタルトキハ其ノ旅行ノ公務タルト私事タルトヲ問ハス前二條ノ支給金ノ半額ヲ支給ス但シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第十三條 巡査看守刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官シタルトキハ第二號表ノ内地定額ニ依リ旅費ヲ支給ス  
第十四條 巡査看守在職中死亡シタルトキハ第十一條及第十二條ノ例ニ準シ前條ノ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十五條 囑託員又ハ雇員朝鮮ニ於ケル勤続五年以上ニシテ官ノ都合ニ依リ解職ト爲リ三十日以内ニ朝鮮ヲ出發歸郷スルトキハ第三條及第四條ノ例ニ準シ内地定額ニ依リ前職相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第十六條 囑託員又ハ雇員在職中死亡シタルトキハ第三條、第四條及第十二條ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第十七條 歸郷旅費ハ舊在勤地ヨリ原籍地ニ至ル路程ニ應シ鐵道賃、船賃及車馬賃ニ相當スル額トス

第十八條 待遇官吏囑託員、雇員其ノ他内國旅費規則ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ本規則ニ規定スルモノヲ除ク外内國旅費規則ヲ準用ス

附則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

官任判	内地		親任官	勅任官	親任官	官任判
	以六級上	以五級下				
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八

第二號表

官任判	内地		親任官	勅任官	親任官	官任判
	以六級上	以五級下				
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八
以下	十	十	十二	十八	十八	八
以上	十	十	十二	十八	十八	八

第三號表

區	分		鐵道賃 一哩 船賃 一海里 車馬賃 一里	宿泊料 二付 一夜	日當 二付 一日	食卓料 二付 一夜	移轉料
	内地	朝鮮					
内地	朝	地	錢三	錢十五	錢八	錢四	錢四十
	朝	地	錢四	錢三十	錢一圓五十	錢五	錢四十
朝鮮	朝	地	錢三	錢十五	錢八	錢四	錢四十
	朝	地	錢四	錢三十	錢一圓五十	錢五	錢四十

●朝鮮總督府及所屬官署職員宿舍支給規則  
明治四十三年十月一日  
朝鮮總督府令第二十五號

第一條 朝鮮總督府及所屬官署ノ職員ニ支給スヘキ宿舍料ノ額ハ別表ニ依ル

第二條 宿舍料ハ左ニ掲グル各號ノ一ニ當ル者ニハ之ヲ支給セス

一 官舎ニ同居スル者

二 自己ノ便宜ニ依リ官舎ニ居住セザル者

第三條 廳舎其ノ他官用ノ建物内ニ居住スル者ハ官舎ニ居住スルモノト看做ス

第四條 新任轉任轉勤退職退官免官及死亡ノ場合ニ於ケル宿舍料ハ左ノ區分ニ依リ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

一 新任ノ場合ニ於テハ發令ノ翌日ヨリ支給ス

二 新任轉任及轉勤ニ因リ旅行ヲ要スル場合ニ於テハ任地到着ノ翌日ヨリ支給ス

三 退職免官及死亡ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄支給ス但シ殘務調理ヲ命セラレタル者ハ其ノ

結了ノ日迄之ヲ支給ス

四 支給額ニ増減ヲ生スル場合ニ於テハ其ノ原因ノ發生シタル翌日ヨリ増減支給ス但シ轉任又ハ轉勤ニ依リ旅行ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ出發當日迄ハ前任署ノ宿舍料ヲ支給ス

五 轉任及轉勤ノ場合ニ於テ旅行ヲ要スル時ハ其ノ出發當日迄旅行ヲ要セザルトキハ其ノ發令當日迄前任署ニ於テ支給スルモノトス

第六條 病氣又ハ私事ノ故障ニ依リ任地ヲ離ルルコト一箇月ニ及ヒタル時ハ其ノ以後宿舍料ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

第七條 宿舍料ハ當月分ヲ其ノ月二十五日ニ支給ス

第八條 朝鮮總督府所屬官署ニ於テ減額支給ノ必要アルトキハ當該官署ノ長ハ其ノ額ヲ定メ之ヲ報告スヘシ

第九條 巡查ノ宿舍料支給ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第十條 本則ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本則施行ノ際舊統監府及其ノ所屬官署並舊韓國鐵道管理局ノ傭人ニシテ現ニ宿舍料ノ支給ヲ受クル者ニ當分ノ内其ノ額ヲ支給スルコトヲ得

第十二條 本則施行ノ際ニ限リ別表ニ拘ラス雇員ニハ最高額迄ヲ支給スルコトヲ得

(別表)

(一) 級地

六十圓



シタル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ  
 公債償還基金編入ノ現金ハ國債證券ニ代ヘ保管スヘシ但シ國債證券ニ代フル迄ノ間若ハ現金トシ  
 テ保管スル必要アル場合ハ郵便貯金預ケ又ハ前項ノ銀行ニ利付預ケト爲スヘシ  
 第四條 臨時恩賜金ノ利子ハ各府郡ノ授産教育並凶歉救済ノ資ニ充ツヘシ  
 第五條 地方長官ハ府尹郡守ノ意見ヲ聞き施設スヘキ事業ノ種類及經理方法又ハ補助スヘキ事業ヲ  
 選定シ總督ノ認可ヲ受クヘシ  
 第六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ二府郡以上ノ共同事業トシテ前條ノ認可ヲ申請ス  
 ルコトヲ得  
 第七條 地方長官ハ毎年度前各府郡別ニ臨時恩賜金ニ對スル收入支出ノ豫算ヲ定メ總督ノ認可ヲ受  
 クヘシ  
 第八條 各府郡ノ臨時恩賜金利子ニ剩餘ヲ生シタルトキハ基金ニ編入スヘシ  
 第九條 前條ニヨリ剩餘金ヨリ編入シタル額ハ必要アル場合ニ於テハ總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ使用ス  
 ルコトヲ得  
 第十條 地方長官ハ年度經過後三箇月以内ニ決算書ヲ調製シ事業經過狀況書ヲ添ヘ總督ニ報告スヘ  
 シ  
 第十一條 臨時恩賜金ノ收支ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム  
 ●虎列刺病豫防ニ關スル件 明治四十三年十月八日  
 朝鮮總督府令第九號  
 虎列刺病流行地ヨリ魚鳥獸肉蔬菜果實等ノ搬出ヲ禁ス  
 虎列刺病流行地ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

道警務部長ニ於テ防疫上必要ト認ムルトキハ部令ヲ以テ前項以外ノ物件ノ搬出ヲ禁止スルコトヲ得  
 本令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
 附 則  
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 ●外國旅券規則 明治四十三年十月十五日  
 朝鮮總督府令第二十七號  
 第一條 朝鮮ヨリ直ニ外國ニ旅行セムトスル帝國臣民ニシテ旅券ノ下付ヲ請フ者ハ書面ニ左ノ事項  
 ヲ記載シ之ニ日籍若ハ民籍ノ謄本又ハ其ノ氏名、本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書ヲ添附シ警務部  
 (京城府ニ在リ)ニ出願スヘシ但シ警務部長(京城府ニ在リ)ノ認定ニ依リ其ノ添附ヲ省略セシム  
 ルコトヲ得  
 一 氏 名(片假名又ハ漢文ヲ以テ)  
 二 本籍地(本籍地ト所在地ト異ナルトキハ所在地ヲ併記スヘシ)  
 三 身 分(月主、家主、別家、家族ナルトキハ月主)  
 四 年 齡(滿何年者ハ何年何月何日生)  
 五 職 業  
 六 旅行地名  
 七 旅行ノ目的  
 第二條 官命ニ依リ外國ニ旅行セムトスル者ハ其ノ所管官廳ヲ經由シテ朝鮮總督府ニ旅券ノ下付ヲ  
 出願スルコトヲ得但シ第一條第一號、第六號及第七號ノ事項ヲ開申スヘシ家族又ハ從者ヲ同行ス  
 ルトキハ同行者ニ係ル第一條第一號乃至第四號ノ事項ヲ併セテ開申スヘシ

第三條 移民保護法ノ規定ニ依リ移民取扱人ニ依ル移民又ハ保證人ヲ要スル移民ニシテ第一條ノ出願ヲ爲ストキハ移民取扱人又ハ保證人ノ連署ヲ要ス

第四條 第一條ノ規定ニ依リ旅券ノ下付ヲ受クル者ハ一枚ニ付金一圓ニ相當スル收入印紙ヲ旅券領收證ニ貼付スベシ

第五條 旅券ノ下付ヲ受クル者ハ其ノ券面ニ署名スヘシ若シ署名スルコト能ハサルトキハ代署セシメ本人之ニ實印ヲ捺捺スヘシ

第六條 旅券面ニ査證アルコトヲ必要トスル國ニ旅行スル者ハ其ノ定ムル所ニ依リ査證ヲ受クヘシ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅券ノ下付ヲ受クルコトヲ得ス

一 豫戒命令中ノ者

二 清國在留禁止命令中ノ者

第七條 第一條ノ規定ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル後六箇月内ニ出發セサル者ハ旅券ヲ返納スヘシ

第八條 旅行者歸國シタルトキハ旅券ヲ返納スヘシ

第九條 旅券ノ下付ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ遺族ヨリ之ヲ返納スヘシ

第十條 商業、漁業其ノ他ノ職業ノ爲特定ノ地ニ數次往復スル者ハ歸國毎ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日ヨリ三箇年ヲ過キテ歸國シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

前項特定ノ地ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第十一條 旅行十年以上ニ及ヒ歸國セサル者ハ十年毎ニ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ査證ヲ受クヘシ但シ清國及露領薩哈噠島、沿海州並黑龍州ニ旅行スル者ニ在リテハ五年毎ニ之ヲ受クヘシ

第十二條 旅券ノ下付ヲ受ケタル者第六條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第一條第一號ノ

至第三號、第六號及第七號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ直ニ旅券ヲ返納スヘシ

第十三條 旅券ヲ紛失シタルトキハ直ニ届出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第十四條 朝鮮ニ於テ旅券ノ返納又ハ其ノ紛失若ハ發見ノ届出ヲ受クヘキ官廳ハ朝鮮總督府及警務部トス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ三箇月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス

一 第一條各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第六條各號ノ一ニ該當スル者其ノ事實ヲ申告セス其ノ他詐欺ノ行爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタル者及之ヲ幫助シタル者

二 他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幫助シタル者

三 本令ニ依リ返納スヘキ旅券ヲ返納セスシテ使用シ又ハ事實ヲ偽リテ旅券紛失ノ旨ヲ届出テタル者

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊規則ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ニ對スル第七條ノ期間ニ該旅券面ニ記載シタル下付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治四十年四月統監府令第十六號外國旅券規則ハ之ヲ廢止ス

●外國旅券規則ニ依リ全一旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地名ノ件 明治四十三年十月十五日朝鮮總督府令第二十三號

明治三十八年朝鮮總督府令第二十七號外國旅券規則第九條ニ依リ全一旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地名ノ通り定ム

清國盛京省、吉林省及黑龍江省、露領薩哈連島、沿海州及黑龍州  
 ●本府及所屬官署ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳名 明治四十三年十一月二日  
 朝鮮總督府警務總監部、朝鮮總督府鐵道局、朝鮮總督府通信局、朝鮮總督府臨時土地調查局、道  
 府、郡、朝鮮總督府稅關、朝鮮總督府專賣局、朝鮮總督府印刷局、朝鮮總督府裁判所、朝鮮總督府裁  
 判所檢察局、朝鮮總督府監獄、朝鮮總督府營林廠、朝鮮總督府醫院、朝鮮總督府平壤鑛業所、朝鮮  
 總督府勸業模範場及朝鮮總督府工業傳習所、各其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス  
 附 則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○ 例 規

●外國旅券規則取扱手續 明治四十三年十月十五日  
 朝鮮總督府令第四十八號

警務總監部  
警務部

第一條 外國旅券規則ニ依リ警務部(京城府ニ在リテハ警務)ニ於テ下付スル旅券用紙ハ朝鮮總督府ヨリ  
 之ヲ配付ス  
 第二條 警務部ニ於テ外國旅券規則第一條ニ依リ旅券下付ノ願出ラ受ケタルトキハ願書記載事項ノ  
 事實相違ナキコトヲ認メタルモノニ限リ、難形各號朱書ノ例ニ準シ邦文及相當譯文中ニ記入シ旅行  
 地記載ノ次ニ「以下餘白」ノ文字ヲ附記シ譯文中相當ノ場所ニ横線ヲ畫シ旅券面左端ニ下付官廳名  
 ヲ朱記シ之ヲ出願人ニ下付スヘシ  
 第三條 移民ニ下付スル旅券ハ前條ニ規定スル手續ノ外氏名ノ上部ニ「移民」ノ二字ヲ頭書シ其ノ右  
 側ニ保證人ノ本籍地及氏名又ハ移民取扱人ノ氏名若ハ會社名ヲ朱記スヘシ  
 第四條 戶主ト同行スル家族、夫ト同行スル妻又ハ父若ハ母ト同行スル子ニシテ旅券ノ下付ヲ出願  
 スルトキハ一通ノ願書ニ其ノ旨ヲ併記セシムルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ其ノ同行者ノ氏名、身分及年齢ヲ戶主、夫又ハ父若ハ母ノ旅券ニ併記スルコ  
 トヲ得但シ夫ト同行スル妻ヲ除クノ外未成年者タル場合ニ限ル  
 第五條 警務部ニ於テ旅券ヲ下付シタルトキハ第一號書式ニ依リ外國旅券下付表ヲ作ルヘシ但シ移  
 民專用旅券下付表ハ別冊ト爲スヘシ

例 規 (第四號)

四七